



市看×いちかん ちいき通信

2016年 秋号

2016年9月10日 発行

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」
「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」をコンセプトにしています。

今号の内容



- P1 ・‘錯覚’
・COCコラボ教育ピックアップ
- P2～3 COCフォーラム
・地域の顔
(須磨区菅の台地区
榎本辰夫さん)
- ・地域づくり・健康づくり
(まちづくりスポット神戸
向山良子さん)
- ・コラボ教育での学び
(編入3年生 苫田ひとみ)
- ・COC研究ひろば第7回
(地域・在宅看護学 波田弥生)
- P4 活動予定

‘錯覚’

神戸市看護大学 事務局長 丸一功光

落語が好き。お馴染みの長屋の八つあん、熊さん、夜鳴きそば屋おまけに幽霊まで登場する。この煩わしくて面倒な人々が、小さな事件を起こしては大騒ぎをしながら生き生きと暮らしている。そんな世界をしばし覗き見するのだが、年に2、3回演芸場に足を運ぶ程度では、たいした満腹感も得られない。

そこで、高度情報化社会を生きる私は、大胆にも、この落語をスマホやパソコンを頼りに何とか楽しめないかチャレンジするのだが、未だに成功したためしはない。兎も角おもしろくない。“どうしたもんじゃろう”とNHKの朝ドラの主人公のごとくため息をつく始末だ。

もやもやしているうちに、茶道裏千家家元・千宗室さんのあるご講演の

記事が目に入った。「私たちには‘錯覚’もあります。高度になった情報化社会に携わる私自身は、高度にはなっていないのです。」そうだ、演芸場の臨場感、自分の楽しみまでスマホ、パソコンに売り渡すことはないのです。いかに演芸場に足を運ぶかの工夫に方向転換だ。

さて、「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」は、この陥りやすい‘錯覚’を克服する約束のキーワードだと思う。COC事業、今後本格化するCOC+事業による実体験が、高度情報化社会に埋没することなく、忘れがちな工夫を取り戻し、必要な集中力によって何を付け加えたらよいか分かってくると、いちかん(市看)のメンバーのひとりとして自分自身にも言いたい。

COCコラボ教育ピックアップ ～2016年春から夏「健康学習論」～

3年生を対象に公衆衛生看護の活動の一つである、集団を対象に科学的根拠に基づいた健康教育・健康学習の企画・実施・評価の一連の過程を学ぶ、「健康学習論」を開講しています。学生たちが企画した健康教育に教育ボランティアの方に参加いただき、本学と須磨区の2ヶ所に分かれて実施しました(トップページ写真は、その模様)。須磨区では10名の住民の方に参加いただき、「ストレッチでストレス解消」「睡眠時無呼吸症候群」「転倒予防」の3つのテーマで発表を行いました。教育ボランティアの方は、学生が実施する運動を一緒に行なったり、説明をメモしておられ、学生は健康教育の実際をしっかり体験できたと思います。「近い将来医療に携わってくれる人たちとお会いして、ホッとしました」「基礎的なことを理解できた」などの感想をいただきました。

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター准教授 相原洋子)